

レアアース需要の拡大

写真:アフロ

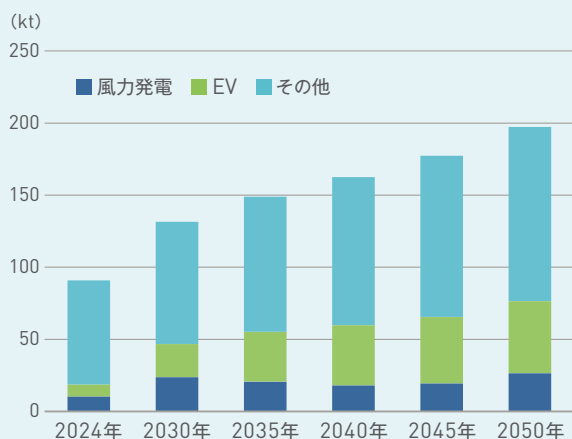


電気自動車（EV）などの発展に伴って、国内でも需要拡大が予想されるレアアース。そのような中注目されるのが、国産レアアースの開発。2026年1月には、内閣府の主導により小笠原諸島・南鳥島（写真）周辺の排他的経済水域で「レアアース泥」を試掘する取り組みが始まるなど、新たな動きが進んでいる。

Summary

- レアアースは、希土類元素であり、電気自動車や軍事、AIなど幅広い産業で不可欠な材料として利用されている。
- 今後も電動化やデジタル化の進展により、世界的な需要はさらに増加すると見込まれる。
- 世界の採掘・精製は中国が圧倒的なシェアを持ち、他国で採掘されたレアアースも多くが中国で精製されているため、供給網の地政学リスクが高まっている。

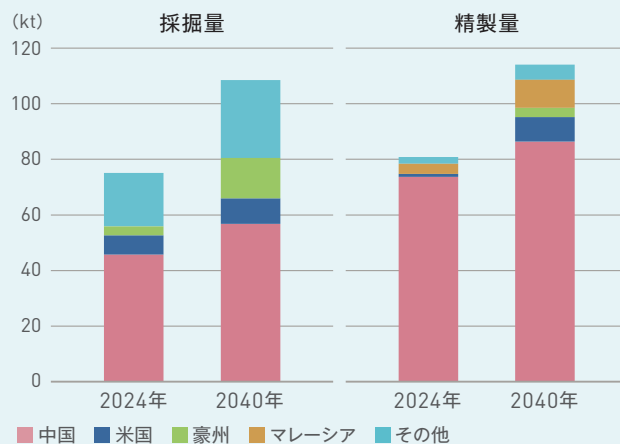
図表1 レアアース磁石の需要量



※プラセオジウム、ネオジウム、テルビウム、ジスプロシウムの業種別需要量を示す。
EVは電気自動車。直近値は2024年、2030年以降はIEAによる予想

(出所)国際エネルギー機関(IEA)のデータより当社作成

図表2 主要国のレアアース磁石の採掘量と精製量



※プラセオジウム、ネオジウム、テルビウム、ジスプロシウムの採掘量、精製量を示す。
2040年はIEAによる予想

(出所)国際エネルギー機関(IEA)のデータより当社作成